駐大阪辦事處剪報

報刊名：神戸新聞　　日期：2014 年 3 月 18 日　　版面：第 29 版

標題: 日台國中生共同制作巨大壁畫、相互展現傳統文化

日台の中学生 巨大壁画

協力し制作

互いの伝統文化表現

日本と台湾の中学生がそれぞれ描いた絵を合体させ巨大壁画にする取り組みが行われ、県立芦屋国際中等教育学校(新浜町)で17日、完成した2枚の巨大壁画が披露された。テーマは互いの国の伝統文化。富士山や姫路城といった日本の世界遺産や台湾で最も古い城「安平古堡」が描かれるなど、両地域の魅力がふんだんに詰め込まれている。(前川茂之)

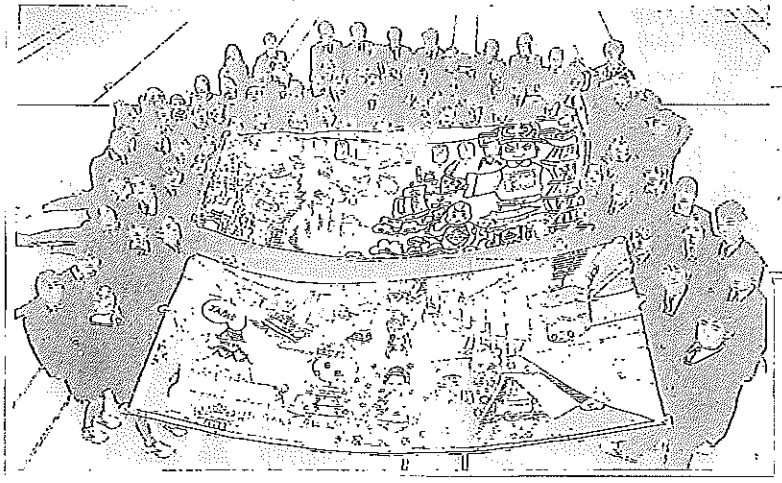
芦屋国際中等教育学校
台南・帰仁国民中学

同校では、日本のほかブラジル、オーストラリアなど26カ国の生徒が学んでおり、海外の学校との交流を深めようと企画された。赤穂市の民間団体「ジャパンアートマイル」が進める「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」に3年生79人が参加した。

共同制作のお相手は、台湾の台南市立帰仁国民中学校の生徒ら。互いの文化や歴史を調べ、昨年9月からインターネットのテレビ会議などでデザインや構図を打ち合わせ、およそ半年かけて完成させた。

巨大壁画1枚当たりの大きさは縦1・5㍍、横3・6㍍。2枚の壁画はそれぞれ上下と左右に2分割し、日本側が青森ねぶた祭や白川郷の合掌造り集落など「祭り」と「世界遺産」をテーマに、残り半分には台湾側が伝統行事の「16歳の成人式」と、儒教の寺院を中心にした「歴史的建造物」を描いた。

芦屋国際中等教育学校の北村真理さん(15)は「描いたものは違うけれど、台湾の生徒らと一つになれた気がしてうれしい」と満足そう。門谷信輝君(14)は「言葉の壁はあっても同じ中学生だと実感した。台湾のことをもっと知りたくなった」と話していた。



日本と台湾の生徒らが半分ずつ描き、合体させた2枚の巨大壁画＝芦屋市新浜町